

会議録

会 議 名	令和5年度（2023年度） 第2回八王子市スポーツ推進審議会（書面開催）
会 議 成 立 日	令和6年（2024年）3月29日（金）
意見書提出委員	池田美枝、薄井信一、澤本則男、鈴木紀幸、松井秀夫、松本佐登美、泉愼一、橋本和秀、園山直樹、三浦壮次、作野誠一、高田彬成、白石幸平、林廣子（名簿順）
議 題	第2期八王子市スポーツ推進計画について
報 告 案 件	令和6年度（2024年度）当初予算案について
配 付 資 料 名	(1) 諮問書（写）及び資料説明書「諮問書」 (2) 第2期八王子市スポーツ推進計画について【資料1-1及び参考資料1～5】 (3) 議題資料説明書【資料1-2～資料1-6】 (4) 令和6年度（2024年度）当初予算案について【資料2、資料3-1、資料3-2】

【意見書の内容】

≪議題：第2期八王子市スポーツ推進計画について…学校部活動の地域連携・地域移行

発言者	内容
高田	中学校の部活動運営の在り方については、教員の働き方改革の一つとしても改善すべき課題であると捉えています。本市設置の部活動検討会議において、活発な意見交換と今後の部活動運営の在り方についての建設的な議論に期待します。その際、忘れてはならないのが、生徒の皆さんの不利益につながらないことが大前提であるということです。本審議会としても、検討会議での議論を注視していきたいと考えます。
三浦	学校部活動を持続可能なものとするために、八王子市教育委員会が推進する「部活動改革」の趣旨を踏まえて、地域連携や地域移行の推進が図られるよう、地域の文化芸術・スポーツ関連団体からの指導者の派遣を積極的をお願いしたい。
鈴木	◎スポーツ、レクリエーションの活動場所を学校の施設を使い、多くの学校にスポーツ団体を点在させて、部活動に参加できるように場所の拡大と参加機会の拡充を図る。 （目的） ・学校、地域、家庭（保護者）、各団体、利用者（小中学生）が、身近に安心して活動できる環境がさらに整い、様々な地域性のある種目に多くの子どもが参加できる。 （理由） ・地域スポーツ団体の紹介シートでは、各団体の活動場所が、市民体育館など様々な場所のため参加しにくい場所がある。学校施設に活動拠点を置くことで、場所がわかりやすく、より身近で開催することで参加しやすくなり、加えて学校施設の有効活用が図れる。 （活動方法） ・学校、市教育委員会が運営団体となり、指導にあたる運営主体をスポーツ団体に委託し、午前中を部活動で指導を行い、午後はスポーツ団体が主体的に活動にして、そこには小中学生や教員も参加できる。団体は安定した活動場所を確保できる。 学びの循環の創出につながる。

鈴木	(課題、対策) ・現在、学校施設は、地域総合型スポーツクラブやその他団体が使用しているので、その調整が難しいと思いますが学校が中心になることで、地域の利用者みなさんが、お互いの顔が見えて安心して集い活動でき、活気のある場所になるように期待できると思います。
池田	横川総合型地域スポーツクラブといたしましては、加盟しているクラブが少年サッカー・少年野球、バドミントン、インディアカ、グラウンドゴルフになりますので、少年サッカー、少年野球に関しては小学生が主体ですので、中学生となると、各クラブ担当者に確認してみないとわかりませんが、小学生でやりたい方はお問合せください。バドミントン・インディアカ・グラウンドゴルフに関しては、シニア主体の団体となっておりますので、小中学生となると、難しいと思いますが、それぞれのクラブで希望者は受入れています。前の会議の時にも申し上げましたが、小学校が使用できないときには、中学校が使用可能にしていきたいです。
白石	掲げられている方向性については、異議はございません。 このテーマはまさに全国的な課題でもあり、八王子市がその先端的な事例やそれを支える体制を構築されることを望んでおります。 他方、これを支える人材の確保やその持続可能なエコシステム作り、それに向けた財源の確保など、もう一歩進んだプランニングやそれに不足しているリソース、あるいはそれらのタイムラインを伺いたいです。
作野	資料 p.3 の図において、学校と地域には教室やイベント以外の重なりはないが、継続的な活動を含めてこの重なり部分を豊かにする必要があるのではないか。
林	少子化により、地域によっては、学校統合や廃校が起こっています。少子化に対して、スポーツの種目は多様化し、学校単位では、部員不足、指導教員不足により、部活動が成り立たない現状であることがわかります。そこで学校部活動を地域施設に移行して、ある程度のまとまった人数を確保することで、活動が可能となりえます。常に学びを共にする者以外の人たちと交流することとなり、例えば小中学校、中高合同体制にすることもできて、新たな視野が広がり、コミュニケーション力を磨くこともできるはずです。 また、まとまった人数であれば、民間のスポーツ指導者、地域の大学、または大学のOB、関係団体が、指導を担うことが可能となり、スポーツ種目を楽しむ部活動はもとより、応援団やチアリーダー、吹奏楽部等、スポーツ周辺の部活も含めて持続可能になると思います。 指導を担う地域側（民間のスポーツ施設、大学、関係団体）から発信される体験会や試合見学会等の情報は、とても魅力的で、子どもたちの意欲を高め、経験不足を減らし、やりたいスポーツの選択肢を増やすものになると期待します。
薄井	協力したいと思います。実現のためには、話し合いが必要です。私はグラウンドゴルフですが、学校に出向いていくことが可能です。
松井	地域連携・地域移行については、概ね賛成です。30 年位前から学校での部活動で支えきれない部分を地域の詳しい方に専門的に見てもらい、部活動に興味を持った子供達（中学生）もいたようです。 以来、様々な形をかえて、今の時代に合ったように変えていけばよいのでは。 親がしっかりと現状を理解し、活動を支えていくことが大切だと思います。

≪議題：第2期八王子市スポーツ推進計画について…学校体育施設の有効活用≫

発言者	内容
高田	学校体育施設の有効活用については、従前の不便利や非効率さの課題等を再度洗い出し、改善に向けた仕組みづくりの構築が求められます。デジタル社会に対応した使用管理システムの運用、セキュリティアラームの解除・設定等を含め、教職員に頼らない施設の開錠の運用、バリアフリー化や安全対策を含めた施設の修改善の推進等、一つ一つの課題に一步一步取り組んでいただきたいと思います。その際、所管課との連携を密に図り、オール市政で取り組んでいただけたらと願っています。なお、本課題は、部活動の地域移行とも連動する問題であることにも考慮する必要があることを追記しておきます。
松本	私の推薦母体「恩方タヤけスポーツクラブ」での取り組みを参考にお話しさせていただきます。 恩方地区は小学校3校、中学校1校をクラブで学校体育施設の運営・管理を担当。新しく利用を望む団体があれば、その都度利用日程の調整を行っています。クラブでは、年2回程度、利用団体、副校長と学校施設開放委員会会議を開き情報共有を図っています。会議の準備、進行もクラブで実施し、副校長の負担は比較的軽いと思われますが、新しく利用したい団体が増えることに協力的な副校長、残念ながら面倒なのか難色を示す副校長もいらっしゃいます。市で学校体育施設の有効活用を呼び掛けているのなら、学校側にその取り組みを理解していただけるよう働きかけていただきたいと思います。 現状クラブでは障害者団体、個人の利用要望はありませんが、今後、障害者の方々の受入を可能にするために、どのように進めていくかを含め、検討中です。そのため、今以上に理解のある学校側が運営には必要となります。
池田	学校側の窓口である副校長先生に御連絡を申し上げても、お答えをいただけないことが多いです。そうなりますと、クラブをこれ以上増やしても、有効活用していくのは難しいです。
白石	こちらで示されている方向性や方針は是非実現頂きたいです。 市民/国民がスポーツ活動を適切に行うために非常に重要なポイントだと考えております。示されている持続可能な仕組みづくりはまさにその要諦であり、いち市民/国民としても早期の整備を望みます。 他方、この実現が簡単なものではないことも理解をしておりますので、実現に向けた具体的な課題を明確に知りたいと考えております。(これらの中には定性的な、様々なコンテキストが入り組んだものも含まれると思料しておりますが、これらも可視化していくことが第一歩になると考えております。)
作野	・資料 p.6「学校開放事業における運営について、指定管理者制度や業務委託等を活用し、民間事業者等にゆだねていくことを検討することが望ましい」とあるが、ここに本市の特徴ともいえる総合型クラブをはじめとした地域組織も例示することはできないか。施設利用の効率化をめざす一方、それによって地域スポーツ組織の活性化にも資するようご配慮いただきたい（cf:久留米市の事例）。 ・学校開放や共同利用に関わる現行の規則や手続きの見直しにも言及していただきたい。
林	公共の体育施設も、学校の体育施設もそれぞれが、老朽化したら、改修工事をするを繰り返しています。全国の人口減少に遅れて、八王子市も人口減少に転じ、これからは、新規の施設建設は、必要性からも財政面からも困難であることがわかります。改修工事も、全部を行うことは同じ理由で難しいため、官民合わせて市全体で考えていく必要があります。そ

林	こで、圧倒的多数の学校体育施設の有効活動は、市民のスポーツ活動の場を確保するために、とても有効であると考えます。 開かれた学校というのは、近年、安全面が危惧されるため、本人確認、入退館の人数確認等を二次元コード等でデジタル化することにより、セキュリティ対策になり、スピード効率も上がると考えます。 学校側の人的負担を軽減することは必須で、それには業務委託をすることになります。そして水道光熱費等のランニングコストも発生するため、利用料徴収は納得のいくものと思います。
薄井	利用しています。今のままで結構です。
松井	有効活用多いにやるべし。その上でより良い所を目指すなら大学コンソーシアムの方々が会議に入っているのなら大学の施設を使わせていただくのも子供達の夢が広がると勝手に思っています。

≪議題：第2期八王子市スポーツ推進計画について…デジタル化の促進

発言者	内容
高田	本市民の豊かなスポーツライフの実現に、DXが追い風となることへの期待感が高まります。デジタル化によって施設予約がしやすくなる、利用申請書が簡素化される、利用料がスマホ決済になる、専用アプリで市のスポーツ情報が一元化できる等、技術的に可能なことばかりだと思いますので、できることから順次導入していただきたいと考えます。その一方で、デジタル弱者と呼ばれる方々への配慮も忘れてはなりませんので、アナログ対応を一掃することのないように丁寧に進めていただきたいところです。
泉	市内競技場等において、VRなどの経験やオンラインボッチャなどのオンラインでの対戦。会場に居ながらにして、競技場の雰囲気を楽しむことができるなど。 eスポーツなど、病虚弱、肢体不自由のある方などが参加しやすい形態の工夫。プログラミング相撲などの新たな競技の開発など。
池田	クラブハウスを持っていないため、八王子市や東京都からのお答えは代表である私がやらせていただいておりますので、自宅にパソコンはありませんし、スマートフォンも十分には使いこなせない状況ですので、すべてをデジタル化とさせてしまっても、対応できない面もあります。
白石	「DX」は、ツールのデジタル化もその要素の1つかと思いますが、同時に組織そのものや意志決定プロセスの変革とセットになってはじめて実現をすることかと考えております。その観点で、八王子市として考えているポイント等があれば、お示し頂きたく考えております。
林	様々な生活環境の中、市民が孤立することなく、情報格差を無くし、広く情報を行きわたらせるために、DXが推進されています。それにより、スポーツを楽しむ機会も豊富になると思います。例えば、スポーツTOKYO インフォメーション「だれでもフィットネス」は、自宅であっても体育館であっても、場所を選ばずにリモートで運動をすることが可能になります。オンラインでは、運動施設の営業時間の確認、駐車場の空き情報のリアルタイムの取得、予約等の手続きが可能となります。また二次元コードを使って、本人確認や年齢確認、入退館記録など、確実にスピーディーに行えると言った大きなメリットがあります。わかりやすく、誰でも活用が出来るように留意しつつ、益々促進されることを願います。
松井	多様性の方々がいらっしゃる中でデジタル化の促進は不可欠と思われます。 ただし、デジタルがすべてではなく、アナログの良い部分をとらえ、デジタル化を促進してほしい。

≪議題：第２期八王子市スポーツ推進計画について…地域の魅力発信

発言者	内容
高田	本市は、自然豊かな土地と人々の活気あふれる暮らしが融合した魅力的なまちであると捉えています。スポーツを通じたまちづくりの一環として、地域の特色に応じた発信ができるよう、市政からのサポートが求められます。その一つが、本市の自然や地形を生かしたアウトドアスポーツの充実であると考えます。都心から近く、通勤圏にありながら、豊かな自然を残す本市の魅力を、スポーツ実践と絡めて各地域から発信していくことにより、本市への注目度がより高まるものと考えます。キャンプやグランピングとセットにしたスポーツ体験等の企画、居住者と来場者のスポーツを通じた交流等、市政からの様々な提案と助成を含めた支援が必要であると考えます。
松本	ＴＯＫＹＯ八峰マウンテントレイルは毎年、手荷物預かり担当をしている関係で、ＴＯＫＹＯ八峰マウンテントレイルという大会があること、開催日程等を知っていますが、意外と地域の皆さんに周知されていませんし、知らない方が多い現状です。とても残念に思います。毎年楽しみに参加される方も多く見受けられるこの大会、また、反対意見もあると聞きますが、この大会が続いて、多くの方に周知されればと思っています。
白石	既に八王子市には多くの魅力的な施策があることを、いち市民として認識をしております。もちろん、こうした魅力的な施策を増やしていくことを考えることも重要であると思いますが、それ以上に、こうした施策をより適切な形で広報/発信をし、次なるプロジェクトの担い手が自然と育つ環境/エコシステム創りを行うことが肝要かと考えます。
作野	・「スポーツ MICE」の内容（スポーツにおける MICE 的事業）は十分に吟味されているのか。一般的なメガ・スポーツイベントとは何が違うのか、これまでとはどこが違うのか、何が目新しいのかわかりにくい。ある程度は外部のイベント等に期待せざるを得ないものの、例えば、「豊かな自然を活かしたアウトドアスポーツの振興」に関連づけたイベントを創造するなど、本市の内的な強みや魅力を活かした取り組みを構想できないか。 ・「アウトドアスポーツの振興」についてはぜひとも積極的に進めていただきたい。それこそ市民が気軽に参加できる活動から、世界中から人が集まるようなアウトドアイベント、アウトドアスポーツイベントを開催できるとよい。
林	全関東八王子夢街道駅伝競走大会は、昭和 26 年（1951 年）に発足し、今年 74 回目となった歴史あるものです。市民ボランティア、町会、商店会、企業、団体、学生等地域が一丸となって、継承し続けているもので、スポーツイベントのお手本になるものです。 そして、高尾山は、2007 年にミシュランガイドで最高ランクの星 3 つを獲得した観光地であり、登山客数においては、年間 300 万人にもなり、世界一とも言われています。 八王子市は、プロスポーツの開催等、人々が集まり注目される都市となり、東京たま未来メッセも建設され、基幹産業や大学による M I C E の開催が、期待できます。 そのような八王子市の魅力を、プレスリリースや動画、SNS 等で国内外に発信して、インバウンドを含め、経済波及効果を創造しうると期待します。
松井	自然を生かした遊びの提供。今ある施設の活かし方（スリーボンドスタジアム・エスフォルタアリーナ等） 大学の施設を利用させて頂く。世界大会、日本選手権など八王子に目を向かせるビッグイベントの開催・発信。

≪議題：第2期八王子市スポーツ推進計画について…東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシーの継承

発言者	内容
高田	本市におけるオリパラレガシーとして、クライミング、自転車競技、パラスポーツの普及等、ターゲットを絞ることで特色も顕著になるのではないかと考えます。一方で、汚職事件と絡めた負のイメージを抱く市民の方々に対しては、行政からスポーツの魅力を発信し続けていくことが希求されます。スポーツを通じたまちづくりの一つ一つが、オリパラレガシーへとつながっていくものと考えます。
泉	八王子市は、推進計画を含め、多角的にレガシーを継承しているので、9つのレガシーを重層的に示し、もっとアピールすることが必要。高尾山登山や裏高尾「誰でもウオーキング」（多様性、バリアフリー）など「健康プログラム」をもっと打ち出し、市独自のレガシーを発信するなど多様な工夫をして、「発信」をして欲しいと思います。
池田	健常者と障害者が共生できるスポーツ活動が望ましいと思います。
白石	「レガシー」がレガシーとなる重要な要件の1つにコミュニティがあるかと思います。各プランとコミュニティの関係性について、プランやアイデアがある場合はご教示頂けると幸いです。
林	東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されて、世界各国の、文化や言語の違う人々が交流しました。そして、様々な障害のある方のための、ユニバーサルデザインが考えられました。2025年には、東京デフリンピックが開催されます。公園やスタジアムのパブリックビューイング等で、コンサートの様にスポーツ観戦をする機会を創出し、いつまでも平和である喜びを享受し合えたら良いと思います。

≪報告：令和6年度（2024年度）当初予算案について

発言者	内容
高田	スポーツ施設管理関係予算については、総論としては増額となり安堵しています。しかし、個別にみると、人件費等の高騰による増額措置は市民サービスの低下を防ぐことにはなっていないサービス向上につながるのか、校庭の夜間開放事業の減額がサービス低下につながっていないか等の心配も散見されます。利用者が増えれば施設の維持管理費も増えることが想定されますが、次年度の予算増額のエビデンスとなる利用促進に向け、継続した取組が大切であると考えます。そうした中、スポーツ振興関係予算については、マイナスシーリングのためか減額となり残念です。先立つものが限られる中、何をすればよいのか、スポーツ推進計画を画餅とせぬよう、知恵を出し合っていきたいと考えます。
白石	本来的にはそれぞれの予算分配のロジックや背景について理解したいという思いはありますが、それは膨大で難しいところもあると思います。そのため、特に増減のあったものに関しての説明等があると嬉しいですね。
作野	・「学校施設の有効活用」を大きく掲げるのであれば、それに伴う施設環境整備（修繕等）や活動周知にもしかるべき手当をすべきではないか。年間 300 千円あまりでできることはごく限られるものと思われる。
林	夜間照明設備改修工事が、目立ちますが、これは、より多くの時間多くの人が安全にスポーツに親しむためには、必須であると考えます。 また富士森公園陸上競技場の第4種L公認更新の為に改修工事、公認大会を開催するために、必要なものと理解します。 電気・ガス料金の高騰に加え、業務委託に関わる人件費の高騰が目立つようになってきて

林	いますが、これは当然のことであると思います。今後も業務委託化を進めていき、官民が協働してより良いサービスの提供を構築していけたら素晴らしいことだと思います。
松井	東京婦人補導院・八王子少年鑑別所の跡地をどのように活用するのか青写真（設計図）を早く知りたい。

令和 5 年度 第 2 回スポーツ推進審議会 意見の一部抜粋

(1) 学校部活動の地域連携・地域移行（部活動改革）

【事務局提示事業】

- ・八王子市の部活動改革の方針
- ・「学びの循環」の推進

【委員からの意見】

- ・生徒の不利益につながらないことが大前提
- ・学校と地域の連携を強化し、子どもたちの活動機会の充実化
- ・学校を活用した子どもたちの活動機会の確保

(2) 学校体育施設の有効活用

【事務局提示事業】

- ・体育館・校庭の学校からの外部化
- ・効果的な運用に向けた使用料の設定

【委員からの意見】

- ・持続可能な仕組みづくり。現行のルールや手続きの見直し
- ・小中学校だけでなく、大学施設の活用も検討

(3) デジタル化の促進

【事務局提示事業】

- ・活動内容、会員募集、指導者募集情報等、地域のスポーツ団体等の情報発信

【委員からの意見】

- ・デジタル弱者への配慮も忘れないようにデジタル化を推進
- ・VR、オンラインボッチャ等、病虚弱、肢体不自由のある方などが参加しやすい形態の工夫

(4) 地域の魅力発信

【事務局提示事業】

- ・スポーツ MICE の推進
- ・地区運動会と学校の連携
- ・豊かな自然を生かしたアウトドアスポーツ振興

【委員からの意見】

- ・本市の内的な強みや魅力を活かした取り組みの構想
- ・自然を生かした取組、既存施設を活かした取組
- ・市民が気軽にできる活動から、人が多く集まるようなイベントの開催まで、幅広いアウトドアスポーツ振興

(5) 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシーの継承

【事務局提示事業】

- ・オリンピック・パラリンピック、ワールドカップ等、大規模国際スポーツ大会に合わせたパブリックビューイングなど観るスポーツの推進
- ・障害者のスポーツ参加の更なる促進

【委員からの意見】

- ・健全者と障害者が共生できるスポーツ活動
- ・本市におけるオリパラレガシーとして、クライミング、自転車競技、パラスポーツの普及等、ターゲットを絞ることで特色を出していく
- ・スポーツを通じたまちづくりの一つ一つがレガシーへとつながっていく
- ・多様性、バリアフリーなど「健康プログラム」を打ち出し、本市独自のレガシーとして発信してほしい

★改定のポイント

現行計画における課題や今後の社会環境の変化を踏まえ、以下の項目を「新しい・強化する要素」に設定し、第2期スポーツ推進計画を改定する。

●部活動改革による子どもの選択肢の拡大

「八王子市の部活動改革」の方針に基づき、「地域活動に参加しやすい環境づくり」と「持続可能な部活動」とを連携させ、子どもたちが学校が設置する部活動以外でも継続してスポーツができる環境の整備や、体験教室・イベントをスポーツ団体や学校等と連携し、実施する。

●学校体育施設の有効活用

活用されていない学校体育施設のシステム予約化など、学校運動施設を最大限活用できるよう、現行の利用方法や利用基準等の見直し、管理・運営の外部化、利用料金設定なども視野に入れてルール等を検討する。

●デジタル化の促進

すべての市民が情報を活用してスポーツに親しむことができるよう、スポーツ施設や各団体が実施する事業、会員募集などの情報を充実させ、市民のニーズに合った情報を届ける取組を推進する。

●本市の特性を生かしたアウトドアスポーツの振興

高尾山をはじめとした豊かな自然環境や、戸吹スケートパーク等多くの屋外運動施設を保有していることから、これらの特性を活用しながら取組を進めていくことで、スポーツ推進だけでなく、本市の魅力を高めることに繋げる。

●東京2020オリンピックパラリンピック競技大会レガシーの継承

市民が多様なスポーツへの関わりを持てるよう大規模スポーツイベントの誘致や積極的な情報を発信していくほか、東京2020パラリンピック競技大会や東京初開催となるデフリンピックなど、大規模パラスポーツ大会の機運を活かし、共生社会の実現に向けた取組を推進する。

計画の方向性

- 1 基本理念・基本方針
- 2 計画の数値目標
- 3 施策体系
- 4 基本施策1 生涯にわたる多様なスポーツ推進
- 5 基本施策2 スポーツができる環境の整備
- 6 基本施策3 スポーツによる地域の活性化・魅力発信

1 基本理念・基本方針

現行計画において数値目標として設定した「18歳以上で週1回以上のスポーツを実施する人の割合（スポーツ実施率）」については、策定時（平成26年度（2014年度））の63.4%から68.7%（令和5年度（2023年度））と向上しました。また、国が第3期スポーツ基本計画において定め、自治体に取組みを求めている施策と方向性が一致していることから、現行計画の基本理念を継承します。

「スポーツとともに生きる」

～豊かなスポーツライフの実現とスポーツを通じたまちづくり～

◆考え方

子どもから高齢者まで、ビギナーからアスリートまで、障害の有無に関わらず、それぞれの趣向、レベルなどに応じ、自分に合ったスポーツを見つけ、スポーツのもたらす多様な効果を楽しんで生きていく、そういった思いを基本理念に込めています。

また、「豊かなスポーツライフ」とは、生涯にわたり、スポーツを「する」ことのみならず、「観る、支える、知る」などのスポーツとの多様なかかわりをすることを指します。市民の一人ひとりが自分に合ったスポーツの楽しみ方を見つけ、スポーツが充実した生活の一部として定着し、生涯を通じてスポーツに親しめるように、さらにスポーツを通じて地域を活性化させ、八王子がより元気なまちになることを目指し「豊かなスポーツライフの実現とスポーツを通じたまちづくり」を基本方針として掲げます。

2 計画の数値目標

国のスポーツ基本計画、東京都の『未来の東京』戦略「戦略16スポーツフィールド東京戦略」を参酌し、本市の現状と課題を踏まえた数値目標を設定します。

◆スポーツ実施率

スポーツ実施率は、国、東京都、現行計画においても数値目標として設定しています。現行計画における目標値及び実績値、国・東京都の目標値を勘案し、第2期スポーツ推進計画における数値目標を「スポーツ実施率 70%」に設定します。

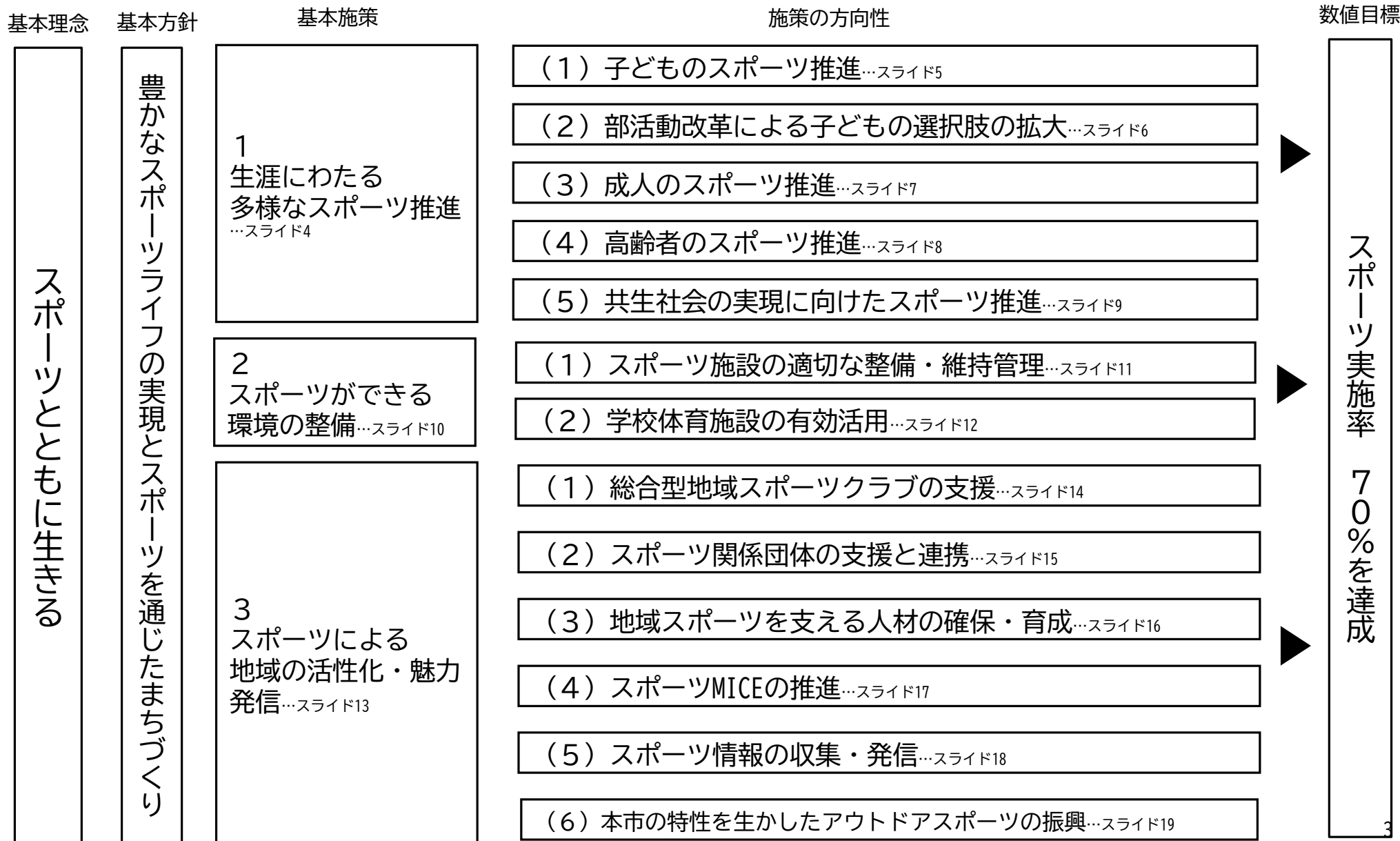
68.7% ➡ 70%

【現状】 令和4年度（2022年度） 【目標】 令和16年度（2034年度）

※国の目標値…52.2%（令和5年度（2023年度）） ➡ 70%（令和8年度（2026年度）） 東京都の目標値…66%（令和5年度（2023年度）） ➡ 70%（令和12年（2030年度））

3 施策体系

基本理念・基本方針の実現に向け、3つの基本施策を設定し、それぞれの課題解決に向けた施策の方向性を整理します。



基本施策1 生涯にわたる多様なスポーツ推進

◆施策概要

スポーツには多様な効果があり、私たちの生活の質の向上をもたらします。年齢、体力、障害の有無、国籍、性別などを問わず多様性を受入れ合い、だれもが生涯を通じてスポーツを身近に感じ、親しみ、楽しむことができるよう、市民一人ひとりのレベルや趣向、環境に見合ったスポーツ施策に取り組みます。

◆施策の方向性

- (1) 子どものスポーツ推進
- (2) 部活動改革による子どもの選択肢の拡大
- (3) 成人のスポーツ推進
- (4) 高齢者のスポーツ推進
- (5) 共生社会の実現に向けたスポーツ推進

基本施策1 生涯にわたる多様なスポーツ推進

施策の方向性（1）

子どものスポーツ推進

◆現状

- 「運動をもっとしたいか」に対して「思う・やや思う」と回答した本市在学の小中学生男子の割合84%、女子の割合約79.5%（令和3年度（2021年度）東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査）
- 「中学校に進んだら、授業以外でも自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたいか」に対して、「持ちたい」と「やや持ちたい」の合計は、男子：88.7%、女子：83.6%（令和5年度（2023年度）全国体力・運動能力、運動習慣等調査）
- 「小・中学生の運動への意識」について、「嫌い・やや嫌い」と回答した割合は。男子8.7%、女子13.6%（令和5年度（2023年度）全国体力・運動能力、運動習慣等調査）

◆課題

○身体を動かすことの楽しさやスポーツへの関心を高める取組のほか、子どもたちが体育や学校部活動以外でもスポーツができるスポーツ環境の充実が必要

◆考え方

子どもにとって、スポーツは基礎的な体力の向上や、動きの発達のほか、人間関係やコミュニケーション能力が育まれる等、心身の発達に非常に効果的です。また、生涯にわたって健康を維持したり、何事にも積極的に取り組む意欲を育む等、豊かな人生を送るための基盤づくりにもなります。

子どもたちにスポーツに触れる機会を提供するとともに、継続して様々なスポーツが実施できる環境を整備していくことが重要です。

◆今後の施策目標

- 多様なスポーツプログラムを指定管理者や各団体等と連携して実施し、子どもたちの運動機会を創出します
- 子どもが自分で考え、判断し、行動していく「生きる力」を育むことができるよう、関係機関や団体とともに屋外での遊びや体験機会の充実を図ります
- 競技力向上、スポーツへの興味・関心を高める取組を指定管理者や各団体等と連携して実施します

基本施策1 生涯にわたる多様なスポーツ推進

施策の方向性（2）

部活動改革による子どもの選択肢の拡大

◆現状

- 少子化に伴う生徒数の減少や、教職員の働き方改革などにより、従来の方式のまま学校部活動を継続していくことが困難
- 子ども・保護者・学校は地域活動の情報を十分に知らない
- スポーツ庁及び文化庁は「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」を策定（令和4年（2022年）スポーツ庁及び文化庁）

◆課題

- 時代の変化に合わせ、誰にとっても無理のないかたちで、子どもたちの体験活動の在り方を変えていくことが必要

◆考え方

これまで「部活動は学校、クラブ・サークル活動は地域」とそれぞれの役割を担ってきました。人口減少や少子化が進む中であっても、八王子市の子どもたちが充実した放課後や休日を過ごせるよう、学校と地域全体で幅広くスポーツ・文化芸術活動等に親しめる環境づくりを推進していく必要があります。

学校と地域活動全体で子どもに多様な選択肢を用意するとともに、子どもたちは活動を自由に選択できるよう、「地域活動に参加しやすい環境づくり」と「持続可能な部活動」とを連携させ、子どもの体験活動と参加機会を支援していく必要があります。

◆今後の施策目標

- 「八王子市の部活動改革」に基づき、市内のスポーツ団体や学校等と連携し、学校が設置する部活動以外でも継続してスポーツができる環境の整備や、体験教室・イベントを実施します
- 部活動指導員や部活動指導補助員を引き続き任用し、学校部活動における子どもたちの活動を支援します
- 地域で活動した子どもたちがやがて指導者となって技術や知識を還元する「学びの循環」を目指します

基本施策1 生涯にわたる多様なスポーツ推進

施策の方向性（3）

成人のスポーツ推進

◆現状

- 働き盛り、子育て世代（30～40代）のスポーツ実施率…30代：約55.7% 40代：58.6%（令和5年度（2023年度）市政世論調査）
- 週1回以上運動をしなかった理由として、「仕事・育児で忙しいから」50.6%、「きっかけや機会がないから」29.1%（令和5年度（2023年度）市政世論調査）

◆課題

- スポーツを始めるきっかけ作りとなる取組や、30代から40代の働き盛り・子育て世代といったスポーツ実施率の低い層に対する取り組みが必要

◆考え方

世代別に見ると30代から40代のいわゆる「働き盛り・子育て世代」のスポーツ実施率が特に低い状況にあります。仕事や育児等で時間的な余裕が限られスポーツの実施が困難な状況であると考えられるため、通勤・通学時間など、特別なことをしなくてもできる運動を推奨していくほか、気軽に取り組めるスポーツプログラムやスポーツを始めるきっかけ作りとなる取組が重要です。

また、日頃からスポーツをしている人にとって、日頃の成果を発揮する大会等は、スポーツを継続して実施していくモチベーションの向上にもつながります。

◆今後の施策目標

- スポーツ活動の成果を試す機会を提供するため、各種スポーツ大会を開催します
- 体育館などにおいて、気軽に参加できるスポーツプログラムの充実化を図ります
- ウォーキングやサイクリングなど、通勤時等に気軽にできるスポーツ活動を普及していきます
- 動画配信などを活用し、自宅等で気軽にできるスポーツ活動を推進します

基本施策1 生涯にわたる多様なスポーツ推進

施策の方向性（4）

高齢者のスポーツ推進

◆現状

○八王子市の高齢化率

平成30年度（2018年度）26.4%（住民基本台帳）

令和5年度（2023年度）27.7%（住民基本台帳）

令和22年度（2040年度）34.4%（高齢者計画・第9期介護保険計画）

○健康のために心掛けていることとして、「適度な運動」63.7%（令和5年度（2023年度）市政世論調査）

◆課題

○健康寿命延伸や、生きがいづくりに繋がるスポーツ推進のほか、身近な場所で継続的にスポーツが実施できる環境が必要

◆考え方

本市における高齢者人口は増加をたどり、令和22年（2040年）には人口の34.29%が65歳以上の高齢者となることが見込まれます。スポーツは自身の健康寿命の延伸のほか、介護や医療に要する費用の抑制、地域の活気あるコミュニティの実現など、様々な側面で効果があります。そのため、持病や身体機能の低下といった、加齢に伴う心身の変化に関わらず、スポーツを実施・継続できる環境が重要です。

また、スポーツを通じた交流は喜びや生きがいに繋がり、日々の生活が活力あるものになります。

◆今後の施策目標

○体育館などにおいて、ヨガ、健康体操など、健康づくりに繋がるプログラムの充実を図ります

○ウォーキングや体操などの軽運動を推奨し、健康寿命の延伸に繋がめます

○スポーツを通じた仲間づくりや喜び・生きがいに繋がるような取組を実施します

基本施策1 生涯にわたる多様なスポーツ推進

施策の方向性（5）

共生社会の実現に向けたスポーツ推進

◆現状

○障害者のスポーツ実施率…20歳以上：30.9%、7～19歳：35.3%（令和4年度（2022年度）「障害児・者のスポーツライフ調査研究」（スポーツ庁））

○パラスポーツに関心がある人の割合…38%（令和5年度（2023年度）市政世論調査）

○パラスポーツの体験やイベントに「参加したことはないが、今後参加してみたい」と回答した方の割合…45.5%（令和5年度（2023年度）市政モニター）

◆現状

○スポーツ実施率の低い障害者に対する取組や、共生社会の実現に向け、障害者理解の促進や障害の有無に関わらず、誰もが実施できるインクルーシブスポーツの普及が必要

◆考え方

全ての国民が障害の有無に関わらず、互いに人格と個性を尊重し合い、理解し合いながら共に生きていく「共生社会」の実現に向け、スポーツにおいては、障害の有無に関わらず誰もが実施できるインクルーシブスポーツの実施や、パラスポーツを通じた相互理解を推進していくことが重要です。

また、スポーツは障害の有無に関わらず、生活を豊かにし、感動を共に分かち合える素晴らしい力を持っています。東京2020パラリンピック競技大会や東京初開催となるデフリンピックなど、大規模パラスポーツ大会の機運を活かし、市民の誰もがスポーツができる環境を目指します。

◆今後の施策目標

○スポーツを通じ、国際理解、障害者理解の促進につながる取組を実施します

○障害のある人となない人とのスポーツを通じた交流機会を創出します

○インクルーシブスポーツの普及と指導者の育成を図ります

○年齢、障害の有無といった多様性を受入れ合い、だれもがスポーツを楽しめるよう取組めます

基本施策２ スポーツができる環境の整備

◆施策概要

スポーツを推進するためには、身近なところで気軽にスポーツに親しむことができる場の確保が必要となります。本市には体育館、野球場、テニスコートなど運動施設のほか、大学、学校、公園等、スポーツに親しめる場が非常に多く、恵まれた環境が整っています。既存施設の老朽化や少子高齢化が一層進展する状況下において、計画的な施設マネジメントのあり方を検討しつつ、場の確保・充実に努めていきます。

◆施策の方向性

- (１) スポーツ施設の適切な整備・維持管理
- (２) 学校体育施設の有効活用

基本施策2 スポーツができる環境の整備

施策の方向性（1）

スポーツ施設の適切な整備・維持管理

◆現状

○公共のスポーツ施設について、利用したときや利用したいと思ったときに感じたことは、「使いたい施設が近くにない」31.6%、「予約がいつも埋まっていて取りづらい」12.8%（令和5年度（2023年度）都民のスポーツ活動に関する実態調査）

○スポーツや運動を実施した場所は、「公共のスポーツ施設」18.5%、「学校（体育施設など）」6.3%（令和5年度（2023年度）都民のスポーツ活動に関する実態調査）

○体育館、屋外運動施設の利用者数：1,820,509人（令和4年度（2022年度）実績）

◆課題

○既存のスポーツ施設を継続的且つ安全に利用できるよう、適切なマネジメントの実施

◆考え方

本市には非常に多くのスポーツ施設が存在しますが、施設の老朽化、人口減少に伴う管理運営の在り方、財源確保など、様々な課題が今後深刻化することが見込まれます。市民が継続的にスポーツを実施できるよう、スポーツ個別施設管理計画・中長期保全計画に基づき、使いやすく安全な施設として適切に管理するとともに、施設の改善を実施してきます。

また、民間のノウハウや保有施設を協働により最大限活用し、身近なスポーツの場の拡充を図ります。

◆今後の施策目標

○スポーツ個別施設管理計画・中長期保全計画に基づき、適切に施設を維持管理します

○より効果的な運用のため、民間のノウハウを活用した運営やネーミングライツの募集を行います

○大学、特別支援学校等の外部資源を活用し、スポーツをする場を確保していきます

基本施策2 スポーツができる環境の整備

施策の方向性（2）

学校体育施設の有効活用

◆現状

- 学校体育施設の年間利用者数：735,048人（令和4年度（2022年度）実績）
- 開放事業が学校の負担になっている現状が見受けられる
- 利用調整の結果、十分に活用されていない学校体育施設も見受けられる

◆課題

- 身近なスポーツ環境である、体育館や校庭といった学校体育施設を持続可能な形で有効活用していくことが必要

◆考え方

身近なスポーツを行う場として、小中学校の体育館や校庭などの学校体育施設を市民の方へ開放しています。令和4年度（2022年度）は延73万人以上が学校施設を利用しており、今後のスポーツ推進には、学校施設の有効活用が不可欠ですが、多くの学校で開放事業が教職員の負担となっている現状があります。また、学校ごと、様々な手法で学校体育施設の利用調整が行われていますが、調整の結果、十分に活用されていない施設も確認できます。学校体育施設が十分に活用されるよう、現行の利用方法や利用基準等の見直し、管理・運営の外部化なども視野に入れて学校開放を推進していく必要があります。

◆今後の施策目標

- 学校施設を有効的に活用できるよう、体育館・校庭等を継続して地域へ開放していきます
- 活用されていない学校体育施設のシステム予約化など、学校運動施設を最大限活用できるルール等を検討します
- 効果的且つ持続可能な運用に向け、体育館・校庭の管理運営の外部化、利用料金設定などを検討します

基本施策3 スポーツによる地域の活性化・魅力発信

◆施策概要

本市には様々なスポーツ団体が存在するほか、高尾山をはじめとする豊かな自然環境にも恵まれています。スポーツには体力向上や健康増進といった効果のほか、地域コミュニティの醸成、地域の活性化といった多面的な効果があることから、地域団体との連携や本市の特性を生かした取組を推進し、スポーツによる地域の活性化・本市の魅力発信に努めていきます。

◆施策の方向性

- (1) 総合型地域スポーツクラブの支援
- (2) スポーツ関係団体の支援と連携
- (3) 地域スポーツを支える人材の確保・育成
- (4) スポーツM I C E の促進
- (5) スポーツ情報の収集・発信
- (6) 本市の特性を生かしたアウトドアスポーツの振興

基本施策3 スポーツによる地域の活性化・魅力発信

施策の方向性（1）

総合型地域スポーツクラブの支援

◆現状

- 総合型地域スポーツクラブ設立効果について「地域住民のスポーツ参加機会の増加」61.2%、「地域住民の交流が活性化」58.1%（令和5年度（2023年度）総合型地域スポーツクラブに関する実態調査結果（スポーツ庁））
- 総合型地域スポーツの現在の課題について「クラブ運営を担う人材の世代交換・後継者確保」72.3%、指導者の確保（養成）56.2%（令和5年度（2023年度）総合型地域スポーツクラブに関する実態調査結果（スポーツ庁））
- 各クラブにおける地区運動会・スポーツ大会等の延参加人数：9,230人（令和5年度（2023年度）実績）

◆課題

- 各総合型地域スポーツクラブにおいて人材の高齢化、担い手不足等が深刻化してきており、それぞれの実情に合った支援を検討・実施していくことが必要

◆考え方

かつて八王子市では、23の地区にそれぞれ「地区体力づくり」が存在し、地域ごとに特色あるスポーツを実施していました。その後、18団体が総合型地域スポーツクラブへ移行し、現在は計19団体が設立されています。

総合型地域スポーツクラブの活動は、地域住民のスポーツ参加機会の増加や地域住民の交流の活性化に効果があり、地域スポーツ振興の一助となりうる存在であるため、その活動を、引き続き支援していくことで地域スポーツを推進します。

◆今後の施策目標

- 総合型地域スポーツクラブの活動を支援し、地域スポーツを推進します
- 総合型地域スポーツクラブの活動やイベント情報を周知し、クラブ活動の活性化を図ります
- 各クラブと連携し、部活動改革に伴う中学生の活動場所の確保やイベント等を実施します
- 地区運動会と学校運動会の連携を促進するなど、子どもたちに地域の魅力を伝える取組を推進します

基本施策3 スポーツによる地域の活性化・魅力発信

施策の方向性（2）

スポーツ関係団体の支援と連携

◆現状

○NP0法人八王子市スポーツ協会加盟団体数：716団体、19,407名、特定非営利活動法人八王子市レクリエーション協会加盟団体数：187団体、7,060名

○プロスポーツチーム「東京八王子ビートレインズ」と連携協力に関する協定を締結（平成28年度）

○後援名義承認実績：78件（令和5年度（2023年度）実績）

○表敬訪問件数：22件（令和5年度（2023年度）実績）

◆課題

○スポーツ関係団体が自立的且つ主体的に活動できるよう、持続可能な形で支援していくことが必要

◆考え方

本市には多くのスポーツ団体が存在し、各団体と連携して、様々な大会等を実施しています。また、各団体が自発的に実施する多数のスポーツ・レクリエーション大会について、年間を通じて後援を行うなど活動支援を行っています。こうした団体は、本市のスポーツ施策の中核的な存在であり、今後も継続して活動ができるよう支援していく必要があります。

また、プロスポーツチームや地域で活躍するアスリート等の応援を通じ、競技に対する興味関心の向上や市民の誇りや愛着の醸成、地域コミュニティの活性化も期待できます。

◆今後の施策目標

○スポーツ関係団体と連携し、各種大会や教室等のスポーツイベントを開催します

○東京八王子ビートレインズや本市で活動するアスリート、本市ゆかりのアスリートの活動を応援します

○多くの市民が地域でスポーツ活動が実施できるよう、様々な既存団体と受入れ体制の整備を進めます

基本施策3 スポーツによる地域の活性化・魅力発信

施策の方向性（3）

地域スポーツを支える人材の確保・育成

◆現状

- この1年間に関わったスポーツを支える活動の実施率：10.4%（令和5年度（2023年度）市政世論調査）
- スポーツ活動への関わり方について「大会やイベントなどのボランティアとして参加したい」17.2%、「地域の方や子どもたちに教える指導者として参加したい」7.1%（令和5年度（2023年度）市政モニター）
- ボランティアに参加するために必要なこととして、「気軽に参加できる機会の拡充」69.7%、「ボランティア情報の入手のしやすさ」56.6%、「イベント・大会の魅力向上」41.1%（令和5年度（2023年度）市政モニター）
- スポーツ推進委員のボッチャ派遣指導実績：24回、1,484名（令和5年（2023年度）度実績）

◆課題

- 人口減少・高齢化等により、ボランティアや指導者など、スポーツを支える人材の不足が見込まれる

◆考え方

誰もが生涯にわたりスポーツ活動を行っていくためには、それを支える人材が必要不可欠であり、高齢化、指導者不足等が見込まれる社会情勢においては、スポーツを支える活動・人材がより重要視されます。また、スポーツを楽しむためには、適切なアドバイスや声かけのできる指導者の存在も重要です。地域スポーツ推進の担い手であるスポーツ推進委員の活動を活性化させるなど、スポーツの意義や楽しさを伝えられる、指導者育成が求められるほか、スポーツボランティアを経験できる機会を拡充するなど、やりがいや達成感に繋がる取組が求められます。

◆今後の施策目標

- スポーツ推進委員による実技研修や講習会を実施し、地域スポーツを支える人材の指導力向上を図ります
- 講師・指導者情報をホームページ等で公開するなど、活動できる場・機会を確保します
- 全関東八王子夢街道駅伝競走大会など、ボランティアとして活動できる機会を提供します

基本施策3 スポーツによる地域の活性化・魅力発信

施策の方向性（4）

スポーツMICEの促進

◆現状

○MICEプロモーションプランを策定（令和5年度（2023年度））

○IFSCボルダーワールドカップ2023八王子の経済波及効果：約1億6,200万円

○プロ野球イースタンリーグ、プロボクシング「ファイティングスピリット」等、集客力の高い大会等を市内で開催

◆課題

○市民が多様なスポーツへの関わりを持てるよう大規模スポーツイベントの誘致や積極的な情報を発信が必要

◆考え方

MICEとは、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称ですが、スポーツにおいてはオリンピック・パラリンピック、ワールドカップなどの大規模国際・国内スポーツ大会などが代表的な例として挙げられます。

MICE事業の開催は、宿泊、飲食、観光等の経済・消費活動による経済効果が期待できるほか、大会を「観る」機会の創出や、大会ボランティア募集など「支えるスポーツ」の推進にも一定の効果が期待できます。

大規模スポーツイベントによりもたらされる恩恵を市民が享受できるよう、公益社団法人八王子観光コンベンション協会や指定管理者等との連携を強化していく必要があります。

◆今後の施策目標

○本市で開催される国際スポーツ大会等を誘致、支援します

○大会を通じ、市民の方が積極的に関われる機会を創出できるよう、主催者と調整していきます

○MICE推進事業の情報発信を積極的行います

○選手の後援団体等と連携し、パブリックビューイングなど、大規模スポーツ大会を応援、観る機会を創出します

基本施策3 スポーツによる地域の活性化・魅力発信

施策の方向性（5）

スポーツ情報の収集・発信

◆現状

○スポーツに関する情報を得ている媒体として、「インターネット・SNSなどの電子媒体」59.6%、「市や都の広報紙」26.3%、「チラシ、ポスターなどの紙媒体」17.2%（令和5年度（2023年度）市政モニター）

○市政情報の入手方法について「広報はちおうじ」83.5%、「市ホームページ」21.8%、「新聞・テレビ」17.3%（令和5年度（2023年度）市政世論調査）

◆課題

○市主催のスポーツ情報だけでなく、地域の各団体が行うスポーツ情報も発信するなど、情報の充実が必要

◆考え方

いざスポーツを始めようと思ったとき、いつ、どこで、どんなスポーツが行われているのか分からなければ、せっかくのモチベーションが下がってしまいます。市民がスポーツ活動に参加する機会を拡大するため、市民にとってわかりやすく、自身にとって必要なスポーツ情報が簡単に入手できるよう、情報提供のさらなる充実に取り組んでいく必要があります。

また、すべての市民が情報を活用してスポーツに親しむことができるよう、スポーツ施設、機会、団体が実施する事業や会員募集などの情報を充実させ、市民のニーズに合った情報を届ける取組を推進します。

◆今後の施策目標

○市が行うイベント情報等のほか、各団体が行うスポーツイベント情報や会員募集情報などを発信します

○広報はちおうじや市のHPに加え、SNSによる情報発信や、記者クラブ等と連携した情報発信を図ります

○部活動改革に伴う地域団体の活動情報やイベント等について、子どもたちにとってより分かりやすいような情報発信を行います

○情報通信技術（I C T）に不慣れな方にも配慮した情報発信を行います

基本施策3 スポーツによる地域の活性化・魅力発信

施策の方向性（6）

本市の特性を生かしたアウトドアスポーツの振興

◆現状

- トレイルランニングといった競技性の高いものから、ヘルシーウォーキング・親子デイキャンプといった自然に親しむことを目的としたイベントまで、幅広くアウトドアスポーツイベントを実施
- 戸吹スケートパーク、上柚木陸上競技場など、魅力的な屋外運動施設を保有

◆課題

- 本市の豊かな自然環境や屋外運動施設等を有効活用し、地域の活性化や本市の魅力発信に繋がる取組の検討が必要

◆考え方

本市には高尾山をはじめとした豊かな自然環境や、戸吹スケートパーク等多くの屋外運動施設を保有しているなど、屋外で行うアウトドアスポーツ推進に際し、高いポテンシャルを秘めています。これらの特性を活用しながら取り組みを進めていくことで、スポーツ推進だけでなく、本市の魅力を高めることにつながります。

◆今後の施策目標

- 本市の自然環境や屋外運動施設を活用し、アウトドアスポーツの振興を図ります
- アウトドアスポーツを広く捉え、ウォーキングや自転車競技等の屋外スポーツ・レクリエーション活動を推進します
- 自然の起伏を活用したトレイルランニングや、キャンプ、アクアスロンなどのアウトドアスポーツを推進します